



(ひかり かがやく子)

「蛍」の子

堀之内小学校だより
R 6 年度 12 月号
令和 6 年 12 月 3 日

【重点目標】「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」

「書くこと」

先日、保護者の方とお話をしている中で、「先生、もっと書くことを増やしてほしい。どんどん書くことがなくなって、不安になる。」とのことでした。

確かに、国の GIGA スクール構想の下で整備された「一人一台端末」により、学校でも書く機会は急速に減っています。「自分の考えや思いもタブレットで打って、その後、画面を見ながらタブレット上で交流。」「友達の発表の時は、ノートに黒板を映すことはひかえ、友達の発言を集中して聞くことに専念し、黒板は授業終了時にタブレットで撮影して保存。」……などなど、少し前までは「書くこと」でしかできなかったことが、タブレットで全てできてしまう環境となりました。



私たちも仕事の多くがパソコンとなり、一日生活していても、ペンで文字を書くのは、電話の時などの「メモ」と、書類の「自分の名前」くらいになっています。日常の言語活動の4つのスキルは「話す、聞く、読む、書く」と言われていましたが、これからは「話す、聞く、読む、打つ」の時代だとまで言われています。

こうした表現手段、コミュニケーション手段の変容から、漢字は「覚えて書ける」ことから、「意味を理解して使い分けて使える」ことがより大事になってきています。つまり、同音異義語や同訓異字を「漢字の意味を理解して適切な漢字を的確に使う」ことの方が、今の社会、これからの社会では必要な能力だということです。

堀之内小学校では、今年から「自学」に力を入れ始めました。子どもたちの中には、身の回りで見つけた疑問について調べたり、自分の苦手なところを何度も練習したりしている子もいます。また、新しく習った漢字を何度も書いて覚えている子もいれば、「漢字の魅力」を感じ、漢字のつくり(字源)を調べたり、難しい漢字を美しく書く練習をしたりしている子もいます。



「一人一台端末」は子どもの世界に急速に大きな変化をもたらしています。「教育とは、先人の文化の継承だ」と言われます。今後も大事な文化として継承していきながらも、その時代時代に求められる能力をしっかりと意識して授業や教育活動に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、実はこの文章で1カ所、間違った漢字を使っているところがあります。どの漢字でしょうか？

(校長 後藤克巳)